

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104068
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス奥道後
所在地	松山市末町乙41-3
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 14

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関の支援・指導により、健康管理に努め、リハビリ機器の設置により、より効果的なりハビリを行い、QOLの維持・向上に努めている。外出の機会を持ち、人・社会との交流を心掛け、気分転換が図れるように支援している。畑を利用し、四季に応じて種まき・収穫することで園芸の楽しさを味わっていただく。衛生管理と清潔を保つことに留意し、施設の点検と毎日の掃除の徹底で利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。食事面でも温かいものを出す事を徹底している。町内会に入り、地域密着の意義を理解し、地域との交流を深めています。自然豊かな環境の中にあるため、四季折々の季節感も感じることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然の中にある事業所は、企業の保養所であった建物を改修し開設12年目を迎え、経営は一般整形外科を中心に東洋医学、内科、脳神経科等を取り入れた総合医療を展開する医療法人である。関連施設としてグループホームの運営を中心とした企業や複合福祉施設を運営する社会福祉法人等を持ち、幅広い地域医療福祉をサポートしている。滑車などのリハビリ機器を備えた1階スペースでは状態に応じた機能回復訓練が実施され、健康的でいきいきとした日々につながっている。職員は職歴も経験もそれぞれだが、利用者一人ひとりの思いに沿えるよう温かい気持ちで利用者の支援に努めている。法人全体で大災害被災地へのボランティア活動に参加しており、被災地での経験を活かした今後の取組みにも期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面があ る (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事 業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	アトラス 奥道後
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	二宮 美保
評価完了日	平成 28 年 6 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者・職員間で地域密着型の意義を理解しており、誰もが見える位置に掲示している。月1回のミーティングで話あいをしている。</p> <p>(外部評価) 事業所理念は開設当初に職員が話し合いで「笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所」と作成した。開設12年を経た現在に至っても、事業所に関わる全ての存在において温かい場所でありたいと願う気持ちで日々の実践につなげている。理念は入職時に管理者から説明し、利用者の集うリビングや食堂など目につく場所に職員手書きのポスターにして掲示し、利用する誰もが共有することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である正月・夏まつり・秋祭りなどに参加したり、湯山小学校の子供たちとの交流・中学生の職場体験・福祉授業などにも積極的に依頼があれば受け入れをしている。去年は、中学生の美術部の生徒さんが来られ、利用者さんと一緒に作品作りをしたりして交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時より地域と関係を深めるための活動を地道に続けている。定期的に地域の幼稚園や小・中学校との交流を持ち、特に職場体験などの体験学習の場としての受け入れを盛んに行っている。地区防災訓練や地域の祭りなどには利用者や職員が地域の一員として参加している。隔月で開催される中山物産展は地域住民の恒例となっていて、会場として事業所スペースを活用してもらっている。法人をあげて地域貢献に積極的に取り組む姿勢がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 職員が研修を受けたりした内容は運営推進会議等で紹介したり、地域の行事に参加したりすることで利用者や接することもありより理解を深めることができている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し、一つ一つ積み上げている。開催ごとに二人の職員が案内から議題・発表するまでの全般を担当しており、職員のスキルアップにもつながっている。地域の方の意見を聞いたり、他の施設の取り組みを聞いたりしてサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、区長、駐在所、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議開催は職員持ち回りで準備することで、運営に携わりながら自主性を高めることができている。運営状況報告だけでなく、地域情報交換のほか、事業所内の研修、外部での研修や勉強会などでの学びの発表、運営上の課題を参加者と共に考える場として有意義に活用することができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) わからない事案がでたら、市の担当者に直接聞き、また、運営推進会議等で新しい情報があれば聞いている。	
			(外部評価) 日頃から質問や相談など、その都度市町村担当者に連絡を取り、アドバイスをもらう気軽な関係にある。地域包括支援センターとも定期的に連絡を取り合う良好な協力関係が構築できている。両者とも運営推進会議への参加を得て運営に関する実情を理解してもらっている。グループホーム連絡会を通じ、近隣グループホームの意見交換や関係づくりができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員一人ひとりが十分理解し介護をしている。但し、利用者の生命・身体を保護するため、本人・家族に説明し同意書を頂くこともある。声かけ・見守りに配慮し、一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、玄関・窓等鍵をすることなく自由な暮らしを支援している。現在は身体拘束なし	
			(外部評価) 法人で身体拘束に関するマニュアルを整備している。身体拘束をしないケアが根付き、現在も対象となるケースはない。毎月の勉強会や外部研修で学ぶ機会を設け、情報を職員で共有し正しい理解に努めている。日中施錠はせず、玄関センサーを活用し、誰もが自由に入出入りできている。一人で外出する利用者を見かけた場合には連絡し合えるように、近くの飲食店や駐在所に協力してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会のテーマとし、定期的には話あいをしている。職員のストレスにも目を向け 会社全体でも心のケアについての取り組みもしている。 職員全員が 日々の生活の中で利用者の変化等にも常に観察し、虐待を見過ごすことのないように取り組んでいる	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護成年後見人制度について研修に参加し、その資料を基に伝達交流をおこない、職員の理解を深めるよう努力している。運営推進会議で議題にして、共有できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行い、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談できるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者や家族の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書には、外部者への相談窓口等の連絡先も示している。家族も高齢化しており、面会の頻度が減ってきている。面会時は声をかけ、話を聞くようにしている。家族ノートを活用し、職員間で情報を共有している。 (外部評価) 入居時には重要事項説明書により事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で、家族等には意見箱の設置や面会時、電話連絡、お便りの機会などを活用して思いが表せるように配慮している。苦情や意見を頂いた場合、家族ノートを活用し職員間で共有すると共に、話し合いを持って早急に運営に反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを行い職員の声を聴きいれている。また、皆が働きやすい施設を目指し努めている。月1回の会では 職員が二人体制で議題や司会進行、記録など全般を通して担当し、意見や提案を出やすくしている。会で出された意見は話し合いにて対応している。解決できないときは法人の本部に連絡して対応している。 (外部評価) 事業所内では職員同士が互いを尊重しながらも言いたいことが言える関係が構築できている。業務に関するアイデアやシフト希望などの発言は気軽に出ている。管理者も夜勤を含めたシフトを共にしているので、実情について理解が深く、職員の精神状態を含めた動向をサポートすることができている。運営推進会議や地域行事、地域のグループホーム連絡会など職員主導で活発な運営ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 能力向上を目指し、研修を受けたり、資格を取れるよう便宜を図る。常勤、パートの人材確保により、勤務状態を確保し、勤務表もそれぞれ無理なく仕事ができるように希望を聞き入れ、2週間ごとに作成している。職員が向上心を持って仕事ができるしくみになっている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や、講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ち、サービスの向上に取り込んでいる。地域のケア会議等にも参加し、他施設の取組み等も参考にしながらサービスの向上に努めている。また、運営推進会議に参加いただいたり、夏祭りに参加したりと交流している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、状況を把握すると共に、本人・家族・介護支援専門員に施設を見て頂き納得し入所生活を始めてもらうよう心掛けています。また、入所前の生活や不安なことを聴き安心して生活していただけるにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくりと聴くことにより（家族の思いと本人の要望や求めているものとの違いも含め）状況を把握する。いつでも相談でき、受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学していただき、必要に応じ、状況を把握し、担当介護支援専門員方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「お年寄りには人生の先輩である」という考えで、いろいろな事を教えてもらっている。支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心掛けている。利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りしながら一緒に行く。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。入所前の生活、双方の生活状況を知らせあい、利用者本人にとって良い方向に向かうようお互いにコミュニケーションをとっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には、お互いの情報を交換し合い、本人が安心して生活できるよう支えられ、協力関係が築けるように配慮している。面会時には、気兼ねなく過ごせる時間を持って頂き、これまで以上の良い関係が築けるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時あるいは電話や便りを利用し情報交換を行い、今までの関係が途切れないように支援している。 時にはお墓詣りに一緒に行き、自宅近所の方と会話をすることで馴染みの関係が続けられるように支援している。 (外部評価) 馴染みの人が面会に訪れてくれる機会を支援することができている。利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所を利用するようになって変わらず継続できるように努めている。地域住民や利用者同士で新たな馴染みの関係が構築されており、理念にこめたそれぞれの立場での居心地の良い場所となるよう、温かく支援することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなでカラオケをしたり、楽しく過ごせる時間をもうけたり、気の合う者同士で庭にでて散歩をしたりして過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように声かけ・見守りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には互いに連絡をとり合い相談に応じている。契約が終了した家族さんでも見かけたら声を掛けてくれることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の声かけ、見守りする中で、またご家族との話し合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。1日の本人の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようにしている。本人の1日の過ごし方を通じ、意向をくみとることができるように努めている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、職員間で情報を共有している。利用者個々の症状の進行により、思いを伝えることが困難な状況に至っても、表情や様子で思いをくみ取ったり、家族の協力を得ながら本人本位に検討するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常生活でも、本人・家族から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録の活用、家族や職員間で意見を交流をし、利用者の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただくと共に本人・家族の意見を聴き介護計画の見直し時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画書を作成している。 (外部評価) 介護支援員を中心に、生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思いを取り入れ作成している。サービス担当者会議を開催し、3か月毎に見直し、毎月モニタリングを実施している。現在、根拠あるモニタリングにつなげるべく書式の改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は、記録し計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応する。リハビリを兼ね、近郊を散歩し、季節の移り変わりを感じたり、風景や草花を見て昔を懐かしんだりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ、民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら、いろいろな情報をいただき、地域の行事などに参加する事で輪が広がるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携をとり、定期検診や相談・受診等を行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状が分かるよう情報を提供し、受診できるように支援している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診の他、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。希望する馴染みの医療機関への受診は家族の協力を得て支援しており、受診時の情報提供が円滑にできている。管理者や介護支援専門員、夜間専門職員は看護師資格を持ち、緊急時や日常的な健康相談などが気軽に行われ、安心感が持てる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 介護職員と情報共有を行い、看護師が健康管理する。必要があれば協力医療機関と連携し、受診したり、往診にきていただいている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携を取り合っている。早期診療・専門医への紹介が可能である。入院時には医療機関と情報を共有し、早期退院できるように協力医療機関にも相談・援助を受けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携をとり、本人・家族を交え今後の状況について相談している。看取りに関する指針を作成し入所時に説明をしている。職員の勉強会をし、少しでも不安がなく介護ができるように支援している。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針をもって説明され同意書を取り付けている。看取り経験があり、法人内部研修にて勉強会の機会を設け、職員の不安軽減やスキルの向上に努めている。状態に応じて話し合いや居室位置について検討し、職員や関係者と方針を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置法を学ぶと共に、対応は施設のマニュアルを整備している。 急変や事故発生時に備え、勉強会を行うと共に、対応は施設のマニュアルを整備し、職員全員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時の対応は日々訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力をえられるよう働きかけている。防災士を養成し、地域との協力体制を築いている。災害については法人全体での会議等もしている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。法人をあげて災害対策への取組みが本格化し、職員個々の意見やアイデアを取り入れた体制づくりが始まった。法人内事業所同士で四半期ごとに設備点検などを行い、客観的視点での安全確認を行っている。事業所内で防災士取得に取り組むことで専門性を高め、地域防災訓練へも積極的に参加することができている。緊急時の備蓄品としては、一週間想定で飲料と食料を備えた。	日本各地の大災害被災地へ法人をあげてボランティア活動に参加する経験の中からの学びを災害対策に活かそうとする取組みは、事業所だけでなく地域の防災対策にも有益なものとなる。事業所の所在する地域は、大災害時には孤立が懸念され、職員も危機感を感じていることから、検討されている防災マップの作成を早急に進めて欲しい。また地域住民を含めた防災訓練を実施し、地域との協力体制が築けることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングで利用者一人一人の状況を把握し、誇りやプライバシーを損ねないように皆で常に話あいをしている。 (外部評価) 排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面での言葉かけをはじめ、日常的に言葉かけに注意をはらっている。利用者の誇りやプライバシーを意識した対応を心掛けており、配慮に欠けていると感じれば、その都度管理者や職員同士注意し合う関係にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 2か月に1回の中山物産店ではおやつ等を自分で選べる場面を作っている。お墓詣りに行きたいと言う場合も時間を作り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人一人の体調や気分によっては食事を遅らせたりしている。散歩も敷地内は制限なく自由にできるような体制にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容においては本人の希望を聴きしてもらっている。必要に応じては毛染めをする方もおられる。家族の希望により洋服を本人と一緒に買い物に行き、おしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好き嫌いやアレルギー等は職員全員が把握しており、牛乳が飲めない利用者には他のものにするなど支援している。できることは声掛けして手伝ってくれる方もおられる。献立は法人で決まってあり各施設で食材等は自由に選んでいる。利用者からもご飯が何を食べてもおいしいと話してくださった (外部評価) 法人の栄養士が全事業所のモデル献立を作成し、事業所で食材などの買出しや調理を行っている。農作物の差し入れや菜園で採れた旬の食材を取り入れたり、利用者の好みに応じて献立をアレンジして活用している。利用者は自分でできる準備や片付けなどを行い、職員も同じメニューの食事で食卓を囲んでいる。移動販売のたこ焼きや外出時などにはファーストフードを楽しんだり、気分転換と同時に楽しみとなる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事量は記録に残している。必要に応じてキザム・ミキサー・とろみをつけるなど配慮をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ、声掛け・見守り・介助をしている。毎食後綺麗にすることで口臭も気にならなくなり、風邪をひく方も昨年はいなかった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声かけ・トイレ誘導など、本人の生活リズムに沿った支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者の様子観察はもちろん、排泄パターンを把握して、声かけや誘導、介助を実施している。利用者の残存能力や機能回復を考慮し、日々の生活の中で食事やリハビリ機器を活用しての運動など、基本的な面から健康管理していくことを大切にしている。利用者の習慣を活かしながらも、用品を正しく選定し、負担を軽減できるよう自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす不穏行動などの影響は、ケース検討・勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫してメニュー作りを心掛けている。運動量や水分補給にも気を配っている。下剤を使わず、センナ茶にするなど工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声かけ・対応の工夫をし、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 週3回の入浴支援を基本にしている。各ユニットには個別浴槽があり、1階浴室にはリフトを設置し、安心して入浴できるよう、状態に応じて選択している。医療面で入浴時の配慮が必要な利用者には清拭で清潔を保持している。入浴が苦手な利用者にも、言葉かけなど工夫しながら柔軟な対応をしており、無理強いすることなく入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。就寝時は本人の希望に合わせて、声かけ・誘導を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心掛けている。職員一人ひとりが、処方薬の目的・副作用を理解できるよう一覧表を作成すると共に、疑問があれば看護師に相談する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りをしながら一緒に行く。日々の生活の中で楽しみを見つけれるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と共に、近隣・中庭を散歩したり、花壇や畑の手入れをする。気の合う仲間と喫茶店へ出かけ、お茶を楽しんだりするなど、戸外に出かけられるよう支援する。 (外部評価) 景色の良い事業所周辺地域での散歩や広い敷地で日頃から気分転換を図っている。法人の車両を使用し幅広い外出支援の選択ができるため、気軽に外出している。帰宅したり、外食を楽しんでこられる利用者もあり、家族の協力を得ながら支援することができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望があれば家族の協力を得て、少額のお金は持たすことも出来き、買い物の際には、適切に購入できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が遠くにいてなかなか来られない利用者には、定期的に電話を掛けていただいたり、家族の声が聴きたくなれば、こちらから電話を掛けお話していただく。小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。職員一同清潔に努め、皆さんが気持ちよく過ごせるように配慮している。 (外部評価) 企業の保養所であった建物を改装活用し、食堂やリビング、リハビリ機器が揃う空間など目的ごとに広々としたスペースが確保されている。個々の症状や利用者同士の関係性を考慮しながら配席に注意し、各所に立て簾などを活用することで昔ながらの風情が感じられる夏を送っている。七夕飾りや地域住民との関わりが感じられる写真などを展示し、あたたかみのある空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭にベンチを置いたり、好きなどころで過ごせる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 希望があれば居室へ使い慣れた道具を持ち込んでいただき、過ごしやすい空間作りに努めている。 (外部評価) ベッドやたんす、クローゼットが備え付けられた居室には、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声をかけている。利用者や家族等は、大切にしている位牌や馴染みの家具や手回り品を持ち込んで、それぞれ居心地よく過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置・段差の解消・身障者用のトイレの設備等により、自立に向けた生活が送れるよう支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104068
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス奥道後
所在地	松山市末町乙41-3
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 14

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関の支援・指導により、健康管理に努め、リハビリ機器の設置により、より効果的なりハビリを行い、QOLの維持・向上に努めている。外出の機会を持ち、人・社会との交流を心掛け、気分転換が図れるように支援している。畑を利用し、四季に応じて種まき・収穫することで園芸の楽しさを味わっていただく。衛生管理と清潔を保つことに留意し、施設の点検と毎日の掃除の徹底で利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。食事面でも温かいものを出す事を徹底している。町内会に入り、地域密着の意義を理解し、地域との交流を深めています。自然豊かな環境の中にあるため、四季折々の季節感も感じることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然の中にある事業所は、企業の保養所であった建物を改修し開設12年目を迎え、経営は一般整形外科を中心に東洋医学、内科、脳神経科等を取り入れた総合医療を展開する医療法人である。関連施設としてグループホームの運営を中心とした企業や複合福祉施設を運営する社会福祉法人等を持ち、幅広い地域医療福祉をサポートしている。滑車などのリハビリ機器を備えた1階スペースでは状態に応じた機能回復訓練が実施され、健康的でいきいきとした日々につながっている。職員は職歴も経験もそれぞれだが、利用者一人ひとりの思いに沿えるよう温かい気持ちで利用者の支援に努めている。法人全体で大災害被災地へのボランティア活動に参加しており、被災地での経験を活かし今後の取組みにも期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面があ る (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事 業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス 奥道後

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 二宮 美保

評価完了日 平成 28 年 6 月 1 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者・職員間で地域密着型の意義を理解しており、誰もが見える位置に掲示している。月1回のミーティングで話あいをしている。</p> <p>(外部評価) 事業所理念は開設当初に職員が話し合いで「笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所」と作成した。開設12年を経た現在に至っても、事業所に関わる全ての存在において温かい場所でありたいと願う気持ちで日々の実践につなげている。理念は入職時に管理者から説明し、利用者の集うリビングや食堂など目につく場所に職員手書きのポスターにして掲示し、利用する誰もが共有することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である正月・夏まつり・秋祭りなどに参加したり、湯山小学校の子供たちとの交流・中学生の職場体験・福祉授業などにも積極的に依頼があれば受け入れをしている。昨年は、中学生の美術部の生徒さんが来られ、利用者さんと一緒に作品作りをしたりして交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時より地域と関係を深めるための活動を地道に続けている。定期的に地域の幼稚園や小・中学校との交流を持ち、特に職場体験などの体験学習の場としての受け入れを盛んに行っている。地区防災訓練や地域の祭りなどには利用者や職員が地域の一員として参加している。隔月で開催される中山物産展は地域住民の恒例となっていて、会場として事業所スペースを活用してもらっている。法人をあげて地域貢献に積極的に取り組む姿勢がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 職員が研修を受けたりした内容は運営推進会議等で紹介したり、地域の行事に参加したりすることで利用者や接することにより理解を深めることができている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し、一つづつ積み上げている。開催ごとに二人の職員が案内から議題・発表するまでの全般を担当しており、職員のスキルアップにもつながっている。地域の方の意見を聞いたり、他の施設の取り組みを聞いたりしてサービスの向上につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者や家族等、区長、駐在所、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議開催は職員持ち回りで準備することで、運営に携わりながら自主性を高めることができている。運営状況報告だけでなく、地域情報交換のほか、事業所内の研修、外部での研修や勉強会などでの学びの発表、運営上の課題を参加者と共に考える場として有意義に活用することができている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>わからない事案がでたら、市の担当者に直接聞き、また、運営推進会議等で新しい情報があれば聞いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日頃から質問や相談など、その都度市町村担当者に連絡を取り、アドバイスをもらう気軽な関係にある。地域包括支援センターとも定期的に連絡を取り合う良好な協力関係が構築できている。両者とも運営推進会議への参加を得て運営に関する実情を理解してもらっている。グループホーム連絡会を通じ、近隣グループホームの意見交換や関係づくりができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>職員一人ひとりが十分理解し介護をしている。但し、利用者の生命・身体を保護するため、本人・家族に説明し同意書を頂くこともある。声かけ・見守りに配慮し、一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、玄関・窓等鍵をすることなく自由な暮らしを支援している。現在は身体拘束なし</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人で身体拘束に関するマニュアルを整備している。身体拘束をしないケアが根付き、現在も対象となるケースはない。毎月の勉強会や外部研修で学ぶ機会を設け、情報を職員で共有し正しい理解に努めている。日中施錠はせず、玄関センサーを活用し、誰もが自由に出入りできている。一人で外出する利用者を見かけた場合には連絡し合えるように、近くの飲食店や駐在所に協力してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会のテーマとし、定期的には話あいをしている。職員のストレスにも目を向け 会社全体でも心のケアについての取り組みもしている。 職員全員が 日々の生活の中で利用者の変化等にも常に観察し、虐待を見過ごすことのないように取り組んでいる	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護成年後見人制度について研修に参加し、その資料を基に伝達交流をおこない、職員の理解を深めるよう努力している。運営推進会議で議題にして、共有できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行い、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談できるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者や家族の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書には、外部者への相談窓口等の連絡先も示している。家族も高齢化しており、面会の頻度が減ってきている。面会時は声をかけ、話を聞くようにしている。家族ノートを活用し、職員間で情報を共有している。 (外部評価) 入居時には重要事項説明書により事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で、家族等には意見箱の設置や面会時、電話連絡、お便りの機会などを活用して思いが表せるように配慮している。苦情や意見を頂いた場合、家族ノートを活用し職員間で共有すると共に、話し合いを持って早急に運営に反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングを行い職員の声を聴きいれている。また、皆が働きやすい施設を目指し努めている。月1回の会では職員が二人体制で議題や司会進行、記録など全般を通して担当し、意見や提案を出やすくするしている。会で出された意見は話し合いにて対応している。解決できないときは法人の本部に連絡して対応している。</p> <p>(外部評価) 事業所内では職員同士が互いを尊重しながらも言いたいことが言える関係が構築できている。業務に関するアイデアやシフト希望などの発言は気軽にしている。管理者も夜勤を含めたシフトを共にしているので、実情について理解が深く、職員の精神状態を含めた動向をサポートすることができている。運営推進会議や地域行事、地域のグループホーム連絡会など職員主導で活発な運営ができている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 能力向上を目指し、研修を受けたり、資格を取れるよう便宜を図る。常勤、パートの人材確保により、勤務状態を確保し、勤務表もそれぞれ無理なく仕事ができるように希望を聞き入れ、2週間ごとに作成している。職員が向上心を持って仕事ができるしくみになっている</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や、講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ち、サービスの向上に取り込んでいる。地域のケア会議等にも参加し、他施設の取り組み等も参考にしながらサービスの向上に努めている。また、運営推進会議に参加したり、夏祭りに参加したりと交流している。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談で、状況を把握すると共に、本人・家族・介護支援専門員に施設を見て頂き納得し入所生活を始めてもらうよう心掛けている。また、入所前の生活や不安なことを聴き安心して生活していただけるにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくりと聴くことにより（家族の思いと本人の要望や求めているものとの違いも含め）状況を把握する。いつでも相談でき、受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学していただき、必要に応じ、状況を把握し、担当介護支援専門員方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「お年寄りや人生の先輩である」という考えで、いろいろな事を教えてもらっている。支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心掛けている。利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りしながら一緒に行う。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。入所前の生活、双方の生活状況を知らせあい、利用者本人にとって良い方向に向かうようお互いにコミュニケーションをとっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には、お互いの情報を交換し合い、本人が安心して生活できるよう支えられ、協力関係が築けるように配慮している。面会時には、気兼ねなく過ごせる時間を持って頂き、これまで以上の良い関係が築けるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時あるいは電話や便りを利用し情報交換を行い、今までの関係が途切れないように支援している。 時にはお墓詣りに一緒に行き、自宅近所の方と会話をすることで馴染みの関係が続けられるように支援している。 (外部評価) 馴染みの人が面会に訪れてくれる機会を支援することができている。利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所を利用するようになってからも変わらず継続できるように努めている。地域住民や利用者同士で新たな馴染みの関係が構築されており、理念にこめたそれぞれの立場での居心地の良い場所となるよう、温かく支援することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなでカラオケをしたり、楽しく過ごせる時間をもうけたり、気の合う者同士で庭にでて散歩をしたりして過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように声かけ・見守りをして	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後でも現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には互いに連絡をとり合い相談に応じている。契約が終了した家族さんでも見かけたら声を掛けてくれることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の声かけ、見守りする中で、またご家族との話し合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。1日の本人の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようにしている。本人の1日の過ごし方を通じ、意向をくみとることができるように努めている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、職員間で情報を共有している。利用者個々の症状の進行により、思いを伝えることが困難な状況に至っても、表情や様子で思いをくみ取ったり、家族の協力を得ながら本人本位に検討するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常生活でも、本人・家族から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録の活用、家族や職員間で意見を交流をし、利用者の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただくと共に本人・家族の意見を聴き介護計画の見直し時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画書を作成している。 (外部評価) 介護支援員を中心に、生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思いを取り入れ作成している。サービス担当者会議を開催し、3か月毎に見直し、毎月モニタリングを実施している。現在、根拠あるモニタリングにつなげるべく書式の改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は、記録し計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応する。リハビリを兼ね、近郊を散歩し、季節の移り変わりを感じたり、風景や草花を見て昔を懐かしんだりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ、民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら、いろいろな情報をいただき、地域の行事などに参加する事で輪が広がるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携をとり、定期検診や相談・受診等を行い、必要 があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医が いる場合は、現状が分かるよう情報を提供し、受診できるように支援 している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往 診の他、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。 希望する馴染みの医療機関への受診は家族の協力を得て支援して おり、受診時の情報提供が円滑にできている。管理者や介護支援専門 員、夜間専門職員は看護師資格を持ち、緊急時や日常的な健康相談 などが気軽に行われ、安心感が持てる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と情報共有を行い、看護師が健康管理する。必要があれば 協力医療機関と連携し、受診したり、往診にきていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り合っている。早期診療・専門医への紹介 が可能である。入院時には医療機関と情報を共有し、早期退院でき るように協力医療機関にも相談・援助を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 協力医療機関と連携をとり、本人・家族を交え今後の状況について 相談している。看取りに関する指針を作成し入所時に説明をしてい る。職員の勉強会をし、少しでも不安がなく介護ができるように支 援している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針をもって説明され同意書を取り付けている。看 取り経験があり、法人内部研修にて勉強会の機会を設け、職員の不 安軽減やスキルの向上に努めている。状態に応じて話し合いや居室 位置について検討し、職員や関係者と方針を共有しながらチームで 支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置法を学ぶと共に、対応は施設のマニュアルを整備している。 急変や事故発生時に備え、勉強会を行うと共に、対応は施設のマニュアルを整備し、職員全員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時の対応は日々訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力をえられるよう働きかけている。防災士を養成し、地域との協力体制を築いている。災害については法人全体での会議等もしている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。法人をあげて災害対策への取組みが本格化し、職員個々の意見やアイデアを取り入れた体制づくりが始まった。法人内事業所同士で四半期ごとに設備点検などを行い、客観的視点での安全確認を行っている。事業所内で防災士取得に取り組むことで専門性を高め、地域防災訓練へも積極的に参加することができている。緊急時の備蓄品としては、一週間想定で飲料と食料を備えた。	日本各地の大災害被災地へ法人をあげてボランティア活動に参加する経験の中からの学びを災害対策に活かそうとする取組みは、事業所だけでなく地域の防災対策にも有益なものとなる。事業所の所在する地域は、大災害時には孤立が懸念され、職員も危機感を感じていることから、検討されている防災マップの作成を早急に進めて欲しい。また地域住民を含めた防災訓練を実施し、地域との協力体制が築けることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングで利用者一人一人の状況を把握し、誇りやプライバシーを損ねないように皆で常に話あいをしている。 (外部評価) 排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面での言葉かけをはじめ、日常的に言葉かけに注意をはらっている。利用者の誇りやプライバシーを意識した対応を心掛けており、配慮に欠けていると感じれば、その都度管理者や職員同士注意し合う関係にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 2か月に1回の中山物産店ではおやつ等を自分で選べる場面を作っている。お墓詣りに行きたいと言う場合も時間を作り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人一人の体調や気分によっては食事を遅らせたりしている。散歩も敷地内は制限なく自由にできるような体制にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容においては本人の希望を聴きしてもらっている。必要に応じては毛染めをする方もおられる。家族の希望により洋服を本人と一緒に買い物に行き、おしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好き嫌いやアレルギー等は職員全員が把握しており、牛乳が飲めない利用者には他のものにするなど支援している。できることは声掛けして手伝ってくれる方もおられる。献立は法人で決まってあり各施設で食材等は自由に選んでいる。利用者からもご飯が何を食べてもおいしいと話してくださった	
			(外部評価) 法人の栄養士が全事業所のモデル献立を作成し、事業所で食材などの買出しや調理を行っている。農作物の差し入れや菜園で採れた旬の食材を取り入れたり、利用者の好みに応じて献立をアレンジして活用している。利用者は自分でできる準備や片付けなどを行い、職員も同じメニューの食事で食卓を囲んでいる。移動販売のたこ焼きや外出時などにはファーストフードを楽しんだり、気分転換と同時に楽しみとなる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事量は記録に残している。必要に応じてキザム・ミキサー・とろみをつけるなど配慮をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ、声掛け・見守り・介助をしている。毎食後綺麗にすることで口臭も気にならなくなり、風邪をひく方も昨年はいなかった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声かけ・トイレ誘導など、本人の生活リズムに沿った支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の様子観察はもちろん、排泄パターンを把握して、声かけや誘導、介助を実施している。利用者の残存能力や機能回復を考慮し、日々の生活の中で食事やリハビリ機器を活用しての運動など、基本的な面から健康管理していくことを大切にしている。利用者の習慣を活かしながらも、用品を正しく選定し、負担を軽減できるよう自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘が及ぼす不穏行動などの影響は、ケース検討・勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫してメニュー作りを心掛けている。運動量や水分補給にも気を配っている。下剤を使わず、センナ茶にするなど工夫をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声かけ・対応の工夫をし、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴支援を基本にしている。各ユニットには個別浴槽があり、1階浴室にはリフトを設置し、安心して入浴できるよう、状態に応じて選択している。医療面で入浴時の配慮が必要な利用者には清拭で清潔を保持している。入浴が苦手な利用者にも、言葉かけなど工夫しながら柔軟な対応をしており、無理強いすることなく入浴の支援を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。就寝時は本人の希望に合わせて、声かけ・誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心掛けている。職員一人ひとりが、処方薬の目的・副作用を理解できるように一覧表を作成すると共に、疑問があれば看護師に相談する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りをしながら一緒に行く。日々の生活の中で楽しみを見つけられるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と共に、近隣・中庭を散歩したり、花壇や畑の手入れをする。気の合う仲間と喫茶店へ出かけ、お茶を楽しんだりするなど、戸外に出かけられるよう支援する。	
			(外部評価) 景色の良い事業所周辺地域での散歩や広い敷地で日頃から気分転換を図っている。法人の車両を使用し幅広い外出支援の選択ができるため、気軽に外出している。帰宅したり、外食を楽しんでこられる利用者もあり、家族の協力を得ながら支援することができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望があれば家族の協力を得て、少額のお金は持たすことも出来き、買い物の際には、適切に購入できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が遠くにいてなかなか来られない利用者には、定期的に電話を掛けていただいたり、家族の声が聴きたくなれば、こちらから電話を掛けお話していただく。小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。職員一同清潔に努め、皆さんが気持ちよく過ごせるように配慮している。	
			(外部評価) 企業の保養所であった建物を改装活用し、食堂やリビング、リハビリ機器が揃う空間など目的ごとに広々としたスペースが確保されている。個々の症状や利用者同士の関係性を考慮しながら配席に注意し、各所に立て簾などを活用することで昔ながらの風情が感じられる夏を送っている。七夕飾りや地域住民との関わりが感じられる写真などを展示し、あたたかみのある空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファを置いたりして気の合う仲間と過ごせる場面作りをしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 希望があれば居室へ使い慣れた道具を持ち込んでいただき、過ごしやすい空間作りに努めている。	
			(外部評価) ベッドやたんす、クローゼットが備え付けられた居室には、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声をかけている。利用者や家族等は、大切にしている位牌や馴染みの家具や手回り品を持ち込んで、それぞれ居心地よく過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置・段差の解消・身障者用のトイレの設備等により、自立に向けた生活が送れるよう支援している。	